

# 大磯町男女共同参画に関する意識調査 調査結果

平成19年度実施

平成20年1月に町内の20歳以上80歳未満の方から抽出した800名の方を対象に、大磯町男女共同参画に関する意識調査を行いました。

この調査は、町の男女共同参画のための基礎資料とするため、住民の方の男女共同参画への意識を把握する目的で行なったものです。

回答者の皆様には、ご多忙の中、ご協力いただきありがとうございました。

## I 調査対象

大磯町内に居住する20歳以上80歳未満の男女計800名を対象に10歳代刻みで同数を抽出

回収件数

328名(41%)

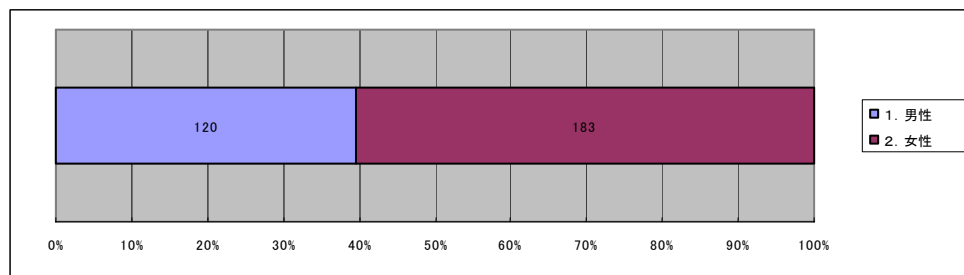
## II 回答者の属性 (以下回答数については未回答分を除く)

### 1 性別

60%が女性となっているため、女性の意見を多く反映した結果となっています。

回答数(人)

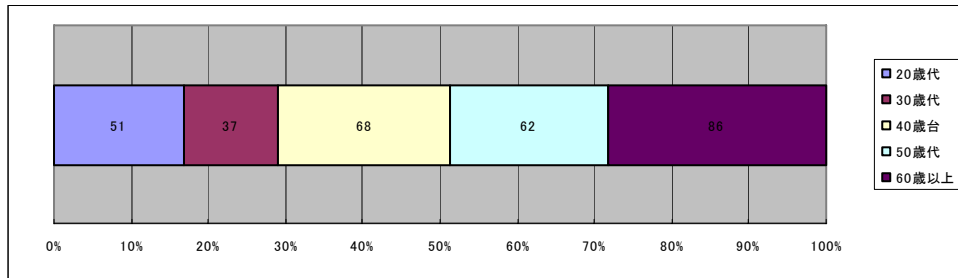
1. 男性	2. 女性
120	183



## 2 年齢階層

60歳以上が最も多く、40歳代、50歳代と続いています。これにより、若い世代より中高年の意見を多く反映する結果となっています。

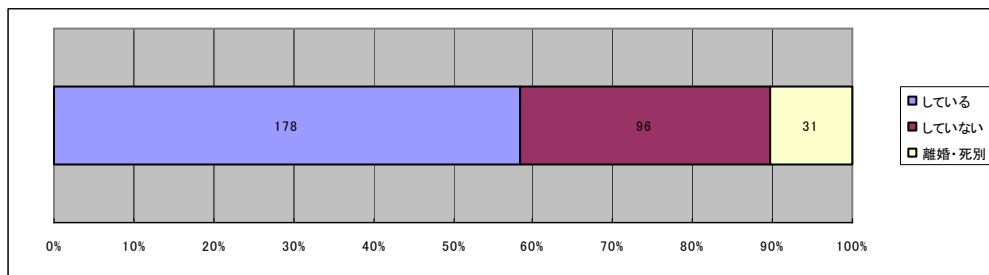
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
51	37	68	62	86



## 3 婚姻

59%が既婚で、離婚・死別が10%となっています。

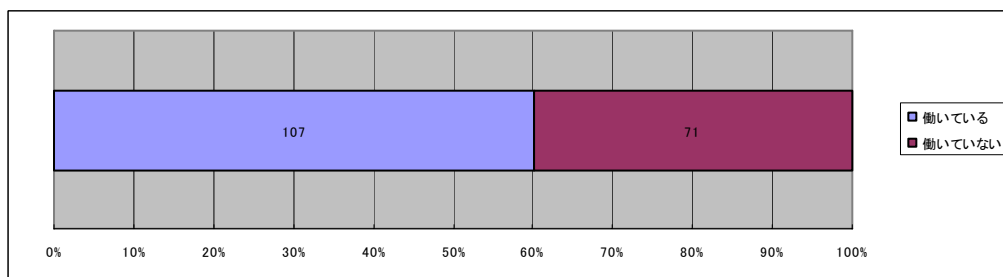
している	していない	離婚・死別
178	96	31



## 4 配偶者の労働状況

働いているとの回答が60%となっています。

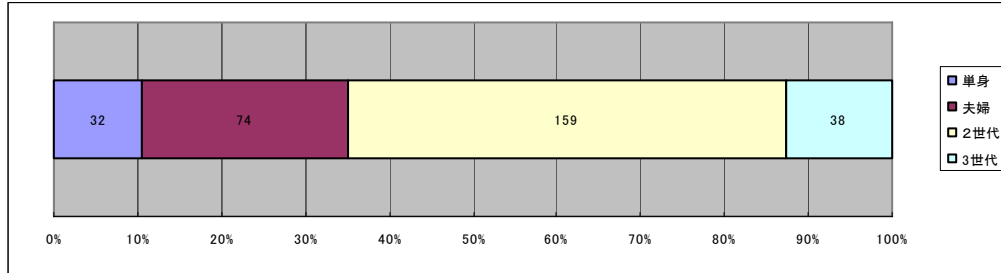
働いている	働いていない
107	71



## 5 家族構成

52%が2世代で、23%が夫婦のみ、3世代、単身はそれぞれ約10%程度となっています。

単身	夫婦	2世代	3世代
32	74	159	38



## III 調査結果の概要

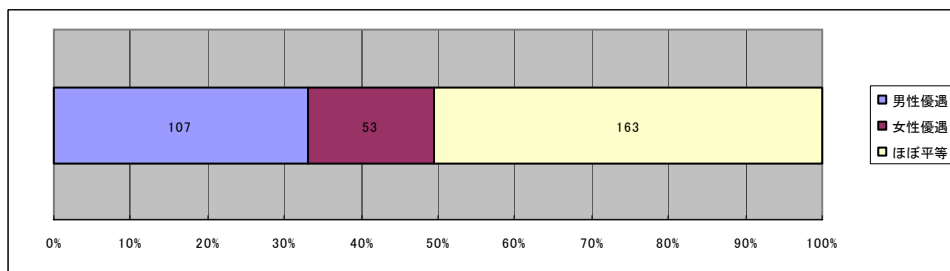
### 1 男女の平等について

家庭生活や学校教育では、ほぼ平等と見られています。特に学校教育の場では平等との認識が89%と高くなっています。しかし職場や社会通念では男性優位と認識している場合がそれぞれ職場67%、社会通念65%となっていますが、平等との意見も約30%を占めています。

#### (1) 男女の地位について

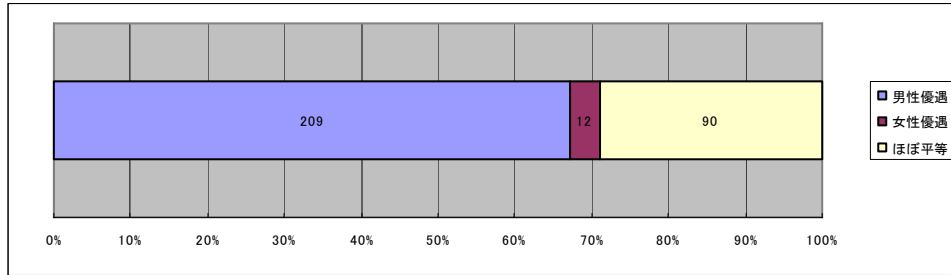
##### ①家庭生活

男性優遇	女性優遇	ほぼ平等
107	53	163



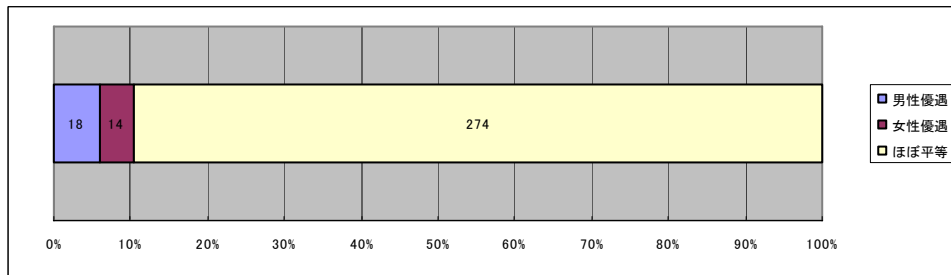
②職場

男性優遇	女性優遇	ほぼ平等
209	12	90



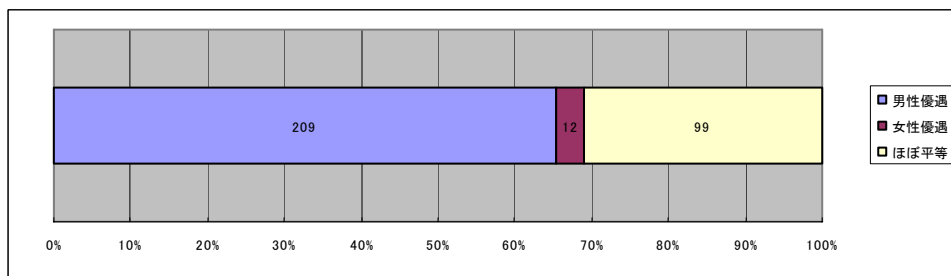
③学校教育

男性優遇	女性優遇	ほぼ平等
18	14	274



④社会通念

男性優遇	女性優遇	ほぼ平等
209	12	99



2 家庭と仕事について

男は仕事、女は家庭との考えについては、全面的に肯定する意見は少なく、「どちらとも言えない」が55%を占め、21%の賛成と24%の反対を大きく上回っている

す。

次に女性と仕事については、子どもが生まれたら仕事をやめ、大きくなったら再度仕事に就くが約65%、子どもが生まれても仕事を続ける(19%)と合わせると84%と、大多数が、就労の継続、子育て後の復帰を指向しているようです。

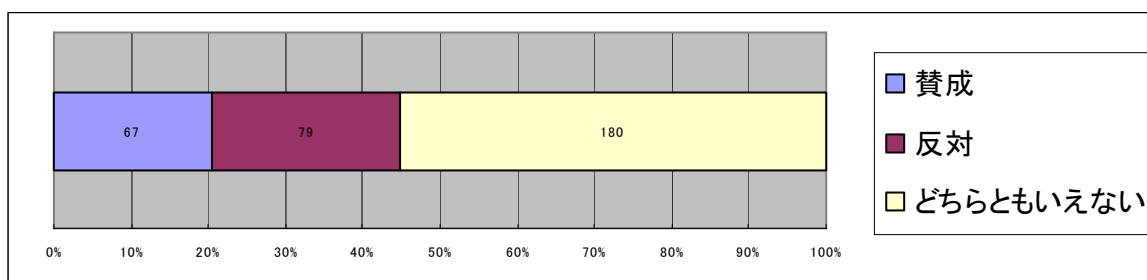
夫婦の働き方については、「片方が働く」が14%、「共働き」が25%「どちらとも言えない」が61%となっていて、必ずしも片方が働くことが望ましいと思っている方は少ないようです。

仕事と家庭生活、地域への関わり方については78%が両立を理想としているものの、61%が現実的には仕事を優先しているようです。

家事、育児、介護の役割については平等にどの考えが圧倒的に多いが、家事63%、育児76%、介護93%と種別によって割合に違いが見られます。

(1)「男は仕事、女は家庭」という考え方について

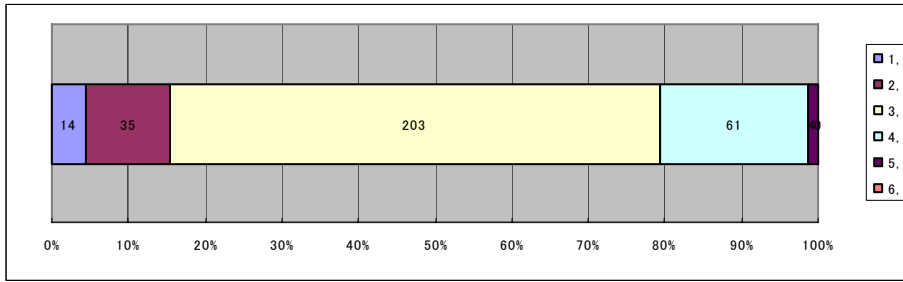
賛成	反対	どちらともいえない
67	79	180



(2) 女性と仕事について望ましいと思うもの

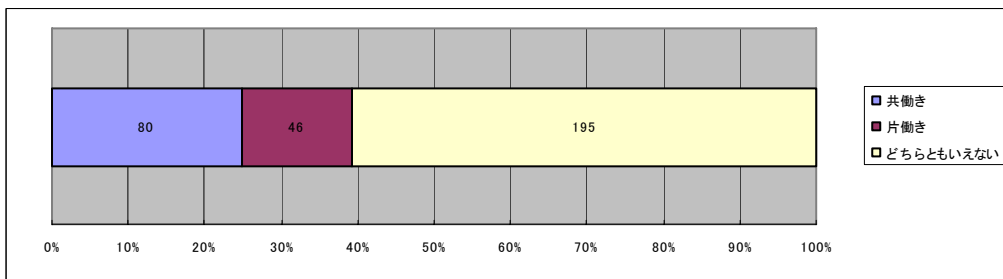
1. 結婚したら仕事をやめ、家事や育児に専念する
2. 結婚して子どもが生まれたら仕事をやめ、家事や育児に専念する
3. 結婚して子どもが生まれたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ
4. 結婚して子どもが生まれても、仕事を続ける
5. 結婚はするが、出産をせず仕事を続ける
6. 結婚しないで仕事を続ける

1	2	3	4	5	6
14	35	203	61	4	0



(3) 夫婦の働きかたについて望ましいもの

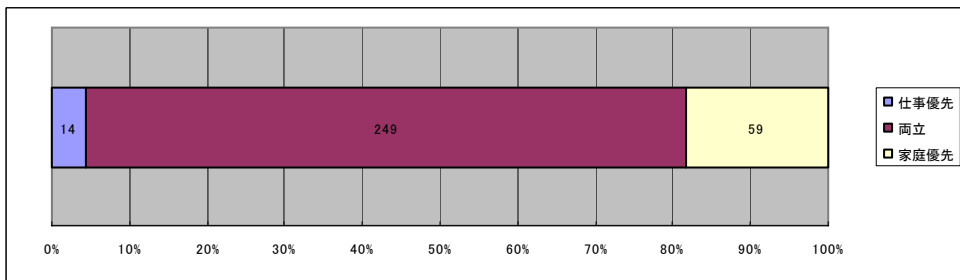
共働き	片働き	どちらともいえない
80	46	195



(4) 仕事と家庭生活または地域活動との関わり方について

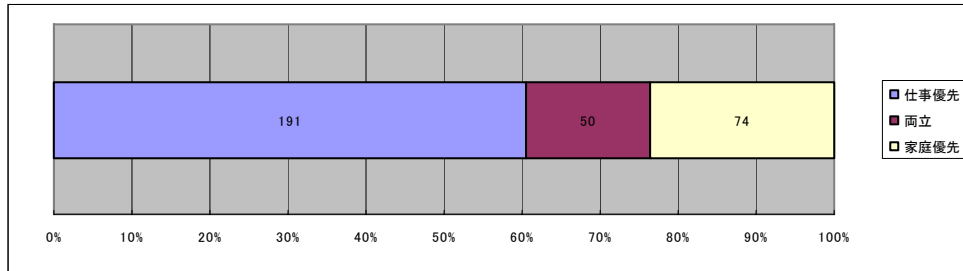
①理想

仕事優先	両立	家庭優先
14	249	59



②現実

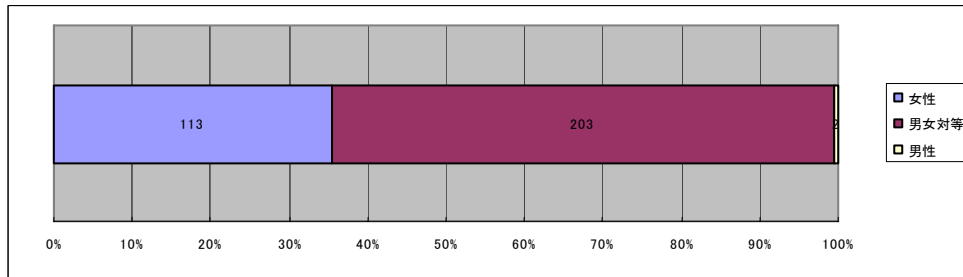
仕事優先	両立	家庭優先
191	50	74



(5) 家事、育児、介護の役割についての考え

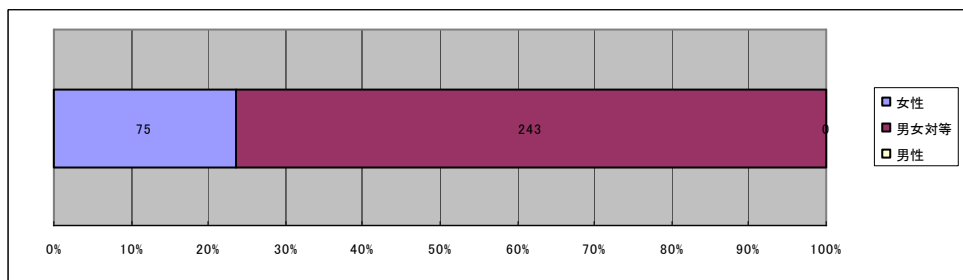
①家事

女性	男女対等	男性
113	203	2



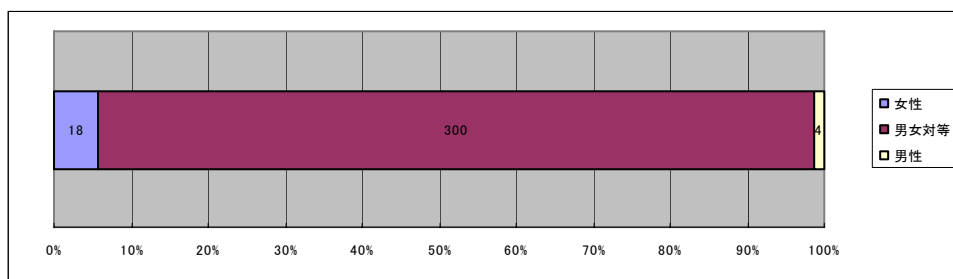
②育児

女性	男女対等	男性
75	243	0



### ③介護

女性	男女対等	男性
18	300	4

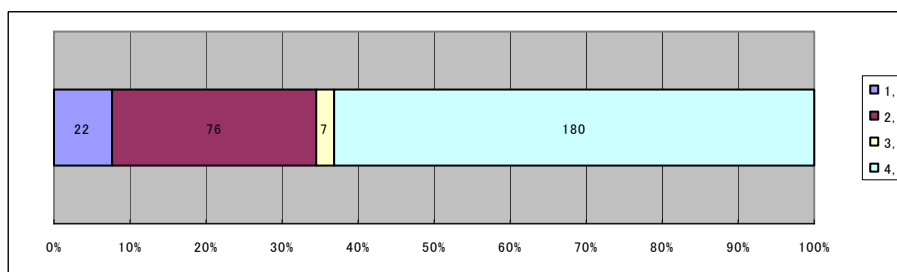


### 3 異性に対する暴力について

DV については「自分の周りで経験した人はいない」が63%と半数以上を占めてはいますが、「自分や自分の周りで経験がある」が37%となっています。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 自分のまわりの女性で経験した人がある
3. 自分のまわりの男性で経験した人がある
4. 自分のまわりで経験した人はいない

1	2	3	4
22	76	7	180



男女共同参画に対して、当該アンケートの結果を踏まえると、多くの方が女性の社会進出を望んでいるようです。

また、「男は仕事、女は家庭」、方働きが望ましいという考え方は少なくなって来ています。

しかし、仕事と家事、育児、介護とのバランスをとることは難しいようです。

女性の活躍を促すためにも、更には少子化対策の観点からも男性が積極的に育児等に参加するような社会が望ましいと考えられ、町としても住民の皆さんの意識に働きかけ、男女共同参画社会の実現を目指して参ります。

調査にご協力いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。